



看護教育 DX 化と学習効果に関する基礎的研究

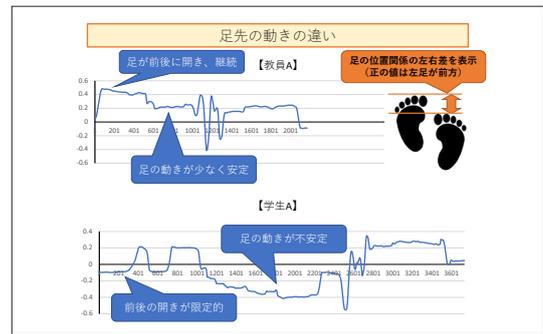
キーワード

視線解析, モーションキャプチャ, 看護技術教育

研究内容

看護技術教育では、学生の看護技術の修得状況が実践の場面で必要とされる技術の水準と乖離している可能性があることや、その状況を十分に評価できていないこと等が課題として挙げられています。

看護学科では、多領域の教員から成る研究チームを組織し、看護技術を確実に修得できる教育プログラムと、その適切な評価に関する基礎的な研究を継続しています。例えば、移乗介助実施時の視線解析データやモーションキャプチャデータの他、デブリーフィングシステムも活用して、より効果的な看護技術の修得を目指す教育プログラム（デジタルトランスフォーメーション（DX）導入型看護技術教育プログラム）の開発などをすすめています。



モーションキャプチャ技術を用い、移乗介助実施時の教員と学生の足先の動きを比較した。

関係論文, 特許・著作物等の知財情報, 連携の実績

- ・北澤健文, 大黒えりか, 杉田理恵子, 川内健三, 一柳由紀子, 柳田真季子, 鈴木晶子, 柳橋正智, 山口佳子, 鈴木幹子, デジタルデバイスを活用した看護技術教育プログラムの開発: 東京家政大学研究紀要 2 自然科学, 64, 1-6, 2024.

社会連携・産学連携の可能性

技術教育へのデジタルトランスフォーメーション導入は看護学以外の領域でも重要視されており、本研究成果も社会や産業界と広く連携することが可能です。